干支会員随想

柏崎刈羽地域のアレルギー診療

村　井　英四郎

日頃より大変お世話になっております。医師としては初めての年男(前回は大学5～6年生)になりますので記念の意味を込めて執筆させて頂きました。

近況として大きな変化は、2024年度よりアレルギー専門医となったことです。内科・小児科・耳鼻科・皮膚科・眼科の5領域に跨るアレルギー専門医制度ですが、現状柏崎市・刈羽村内唯一のアレルギー専門医となりますので、今後はこれまで以上に柏崎市・刈羽村民へアレルギー診療を還元していけたらと思っています。私が常勤のアレルギー専門医であること、患者数やプリックテスト・食物経口負荷試験などのアレルギー診療・検査を十分行っていることでアレルギー学会からの認可があり、柏崎総合医療センターが「アレルギー専門医準教育研修施設(小児科)」に認定されました。

柏崎市に赴任後から現在までに関わった患者数も、食物アレルギー単体に絞っても120人を超え、当院小児科の常に「予約なし外来」のスタイルでは限界を迎えました。2024年度からは新患限定初回のみ予約可能な枠を設置し、新規受診や診療所様・新潟病院様からの紹介を受けやすくしております。新生児診療や救急診療に割く時間が減ってしまいましたが、新潟大学小児科医局から専攻医終了後の活力溢れる先生の常勤や助勤を頂き、日々の診療を回しております。

直近の課題としては、当院皮膚科が2025年1月より外勤医外来のみとなりました。元々アトピー性皮膚炎自体はアレルギーマーチの観点からアレルギー診療の根幹の部分ですので、小児(アレルギー)科の得意とするところです。とはいえ、当院皮膚科でアトピー診療を行っていて、当院小児科には体調不良時の受診のみあるいは別の小児科かかりつけがある患児も多いですので、今後の当院小児科は患者数の増加が見込まれますが、当院皮膚科は小児科と違い予約が可能だったことや、皮膚科の方が小児科よりレセプト審査が甘く、このまま小児科にスライドして来られても同じような診療を受けることができない患児が当院皮膚科に多数おり、小トラブル・小クレームが絶えない1年になると思われます。

院内連携に関してはアレルギー専門医となってから、他科の先生から好酸球性疾患の相談などを直接して頂けるようになり、アレルギー学会が掲げる「Total Allergist」に近づくための働きができていると感じています。今後はPAE(小児アレルギーエデュケーター)やCAI(アレルギー疾患療養指導士)などのコメディカルの育成にも関わっていけたら思っていますので、アレルギー診療に興味のあるメディカルスタッフが増えて欲しいなと思っているところです。

近年アレルギーを取り巻く環境はあまりいいものとは言えず、連日と言っても過言ではないほど、保育園・学校などでの食物アレルギー絡みのニュースが飛び交っています。訴訟案件も増えてきており、そのためもあるのかもしれませんが、事象の内容が実際とは大きく異なって報道されていることもあります。医療者として中途半端に関わることが、患者側・学校側(行政や教育委員会も含む)・医師側の全てにとって不利益になる可能性があります。患者と医師の縦の繋がりだけではなく、医師同士の横の繋がり、柏崎市・刈羽村や教育委員会などとの斜めの繋がりも意識したTotal Allergy診療を年男の目標としたいと思います。